

### 3.1.5 国際交流（社会学部・社会学研究科 共通） .....

#### 【評価項目 7-0-1】 国際交流（国内外における教育研究交流）

- （必須要素）国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性（学部・研究科）
- （必須要素）国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性（学部・研究科）
- （選択要素）外国人教員の受け入れ体制の整備状況、運用の適切性（学部・研究科）
- （選択要素）教育研究及びその成果の外部発信の状況とその適切性（学部・研究科）
- （選択要素）国内外の大学院間の組織的な教育研究交流状況（研究科）
- （選択要素）国際的な教育研究交流、学術交流のために必要なコミュニケーション手段修得のための配慮の適切性（研究科）

#### <2003年度に設置した目標>（全学の目標）

1. 世界に広く協定校を開拓し、地球規模のネットワーク作り
2. 外国人教員の受け入れを推進し、そのための体制の整備と本学教員の派遣を推進
3. 国際交流委員会の組織的位置づけの向上と交流に関する新しい基本方針の策定
4. 海外の大学との協力、連携による新しい教育プログラムの開発

#### （現状の説明）

社会学部では、学部における国際交流委員会を中心的な担い手として、全学的な国際交流活動に積極的に関わることを通じて、学部での教育研究活動をより一層充実した内容にすることを目指してきた。

#### 1. 人的国際学術交流に関する派遣と受け入れに関する実績

次のとおり継続的に諸外国との人的な学術交流を続けることによって、教育・研究における積極的な国際交流に取り組んでいる。

##### (1) 派遣

2002年度 短期49名、長期3名

2003年度 短期44名、長期1名

2004年度 短期68名、長期2名

##### (2) 受け入れ

2002年度 短期1名

2003年度 短期3名

2004年度 短期1名

#### 2. 学生の留学プログラムに関する実績

次のとおり毎年の交換留学プログラム等に多数の学生が参加することによって、学部教育における国際交流に積極的に取り組んでいる。

##### (1) 交換留学

1996年度5名、1997年度6名、1998年度6名、1999年度3名、2000年度4名、

2001年度3名、2002年度1名、2003年度3名、2004年度2名

##### (2) 英語中期留学プログラム

2000年度10名、2001年度14名、2002年度13名、2003年度10名、

2004年度14名

#### 3. 以上に述べてきたように、社会学部では教員の受け入れ／送り出しと学生の留学プロ

グラムへの参加の双方を通じて、学部での教育・研究における国際交流活動に取り組んできた。

#### (点検・評価の結果)

1. 社会学部の学生は積極的に全学の国際交流プログラムに参加しており、参加学生からはプログラムを通じて貴重な体験と知識を身に付けることができたことが報告されている。こうした交流プログラムを通じて、協定校とのあいだでの地球規模のネットワーク作りは円滑に進んでいる。
2. 社会学部では毎年招聘教員を受け入れ、学術交流を円滑に進めている。研究科においては、COE招聘教授として毎年、2名を迎え入れている。
3. 社会学部では、招聘教員による授業担当・研究会開催を積極的におこなうことを通じて、新しい教育プログラムの開発に貢献している。
4. 研究科ではCOEプログラムとして、国際共同調査をすすめており、中国（清華大学）、ネパール（トリブバン大学）などとの共同研究を行なっている。大学院生もその研究に参加している。

#### (改善の具体的方策)

より一層の学生の送り出し、海外からの教員の受け入れ／社会学部からの教員の送り出しを実現することによって、全学的な国際交流にさらなる貢献を果たしていく。

ポストCOEに向けて、現在進行中の共同研究を持続させる方策を検討中である。